

令和7年度 第2回審議会の振り返り

— 令和7年度 第2回 飯田市これからの学校のあり方審議会 会議録概要

開催日時	令和7年9月29日(月) 19:00～21:15
開催会場	飯田市役所本庁C棟3階 C311～C313 会議室
出席者	審議会委員(以下敬称略) 後藤正幸、三浦弥生、會川百樹、原 雅彦、玉置洋一、飯島政樹、松岡香代子、 山浦貞一、吉野久美、村山雅也、勝野久美恵、下沢晃世、伊藤桂子 (オンライン) 坂野慎二、井出隆安 オブザーバー 北澤正光(飯田市教育長職務代理)
配布資料	1 次第 2 配席図 3 委員名簿 4 第1回審議会の振り返り 5 今後の審議の方向性について 6 遠山郷学園における学校の配置・枠組み等についての要望 7 「遠山郷学園における学校の配置・枠組み等についての要望」に対する回答 8 遠山郷学園における小学校の再編に向けた基本方針 9 本日の審議について 10 第2次答申に向けた論点整理のための個人ワークシート 11 第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークシート 12 第2回 飯田市これからの学校のあり方審議会 グループ委員名簿 13 「遠山郷学園会議」の設置と検討の経過 14 遠山郷学園だより 2025年5月発行 15 2025 遠山郷学園グランドデザイン
事務連絡	事務局から会議成立を宣言 会議録における氏名公表を確認 1 開会 (司会進行:後藤会長) 2 熊谷教育長あいさつ ○改めまして、皆様こんばんは。 ○お仕事等でお疲れのところ、夜遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。 ○市内小中学校では2学期がスタートし、小学校では運動会、中には音楽会という学校もあるかと思 いますし、中学校では文化祭、学芸会という学校もありますけれども、それらに向けての準備が進んで きている状況です。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、運動会や文化祭は昔と違ってきてい ます。例えば、運動会では時間が午前中だけというように短くなり、今まではどうしても見栄えのいい 素晴らしい発表をしようというようなことを先生たちも求めて、保護者の皆さんも、地域の皆さんも、 見事な発表に感動を覚えるような運動会、文化祭だったのではないかと思います。今、みらい創造 科の授業のあり方を考え、探究する学びに変えていきたいと考えていることも含めて、こどもの主体 性を大事にして、結果の見栄えではなく、その過程を大事にするということを大事にさせていただくよう 学校現場にお願いをしているところです。 ○授業もそういった方向ですし、学校行事も替わってきていますので、昔と同じものさしで見えしま うと、子どもたちも苦しく、先生たちも厳しいなど感じる面があるものと思います。子どもたちが最初の段 階からどのくらい成長したのか、生き生きと楽しそうに頑張っているか、一生懸命やっているのか、そういう姿 を評価をしていただくと、子どもたちも喜ぶのではないかと思いますし、そのように変化をしてきてい る時代だなどということを改めて思っているところです。 ○さて、本日は、本年度の審議会2回目となりますけれども、遠山郷学園の小学校再編に関する取組か ら学ぶことをテーマとして会議を開催したいと思います。これまで先行的に進めていただいた遠山郷

学園の小学校の再編に向けた準備を今まさに進めているところですが、もちろん教育委員会もこれまでのところに関わらせていただいておりますけれども、メインは遠山郷学園の地域の皆様方が、保護者の強い期待や声を受け、地域の皆様方の声をまとめて要望書として出していただき、今、再編という形が進もうとしているところです。ここまで至るまでに何回も会議を重ねて、そのエネルギーは、本当に大変なことであったと、感謝を申し上げるとともに、敬意を表するところです。本日は、その中での苦勞されたお話もしっかりとお聞きしながら、今後の学校のあり方について、観点や視点を見出しながら進めていければと思います。そのため、今回初めてグループワークの形で協議をしていただきますが、今後、学校のあり方について審議する中で、どういった視点・観点で議論すべきか、どのような考え方・見方をすべきか、あるいはどのようなことに留意すべきか等を出していただければと思います。ぜひ、グループワーク等の中で、忌憚のないご意見を出していただき、今後に繋げていけたらと思います。本日はよろしくお願いいたします。

3 後藤会長あいさつ

○私からも一言ご挨拶申し上げたいと思います。本審議会が、令和5年5月25日にいただきました二つの諮問のうち、一つの答申は終わっているわけでありますが、もう一つの答申に向けて、具体的な協議がいよいよ始まることとなります。どうか皆様方、今日は初めての試みで、グループワークを実施してみたいと思いますが、快い会議にできたらと思っています。よろしくお願いいたします。

4 報告事項

(1) 第1回審議会の振り返り

○事務局から「第1回審議会の振り返り」及び「今後の審議の方向性について」により第1回審議会の振り返りについて報告

(2) 遠山郷学園における小学校の再編について

○事務局から「遠山郷学園における学校の配置・枠組み等についての要望」、「遠山郷学園における学校の配置・枠組み等についての要望」に対する回答」及び「遠山郷学園における小学校の再編に向けた基本方針」により遠山郷学園内の小学校再編に関する進捗状況を報告

5 協議事項

(1) 本日の審議について

(後藤会長)

○それでは、本日の審議の進め方について、事務局より説明を受けたいと思います。

(事務局 上沼教育政策課長)

○事務局から「本日の審議について」、「第2次答申に向けた論点整理のための個人ワークシート」、「第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークシート」及び「第2回 飯田市これからの学校のあり方審議会 グループ委員名簿」により個人ワーク及びグループワークの方法について説明

(後藤会長)

○これからの審議についてご説明をいただきました。

○この後、早速、検討に入りますが、初めての試みですが、円滑な協議といえますか、気持ちも楽にしながら進めていければと思います。それでは、以降のファシリテートを事務局の皆さんにお願いしたいと思います。

(事務局 上沼教育政策課長)

以降の個人ワーク及びグループワークのファシリテートは事務局が担当

(2) 遠山郷学園における学校のあり方検討について

(報告者:玉置委員)

○貴重な時間をいただき、うまく説明ができるか不安ですが、遠山郷学園会議の立ち上げたこと、それから、和田小学校、上村小学校の2校の小学校の再編要望を飯田市教育委員会へ提出し、先ほどの秦野教育次長から説明があったとおり、教育委員会からご回答をいただいたことを含め、今までの経過等を含めまして、概略をお話いたします。

○まず、私たちの地域については、平成17年に飯田市に編入合併いたしました。その当時の人口が南信濃で約 2,200 人、上村で780人で、ちょうど合併して20年の今年8月末現在で、南信濃 1,006 人、上村309人と、約半分に減少しました。人口が一番多い時期は、昭和20年前後で、

南信濃は約 6,000 人、上村が約 2,600 人と、約 9,000 人弱の人口があった時代もありました。80年経過して、このような人口になっていますが、当然にして、学校の児童生徒数も、私の頃の昭和31年頃は、和田小学校で500人、遠山中学校も当時、八重河内、南和田、木沢という集落がございまして、全校で 500 人ぐらいの生徒数でした。令和7年度の遠山中学校の生徒数は21名、和田小学校の児童は現在15名です。複式学級3学級という状況の中で学校運営が行われています。この2・3年、和田小学校の入学児童は1名という状況で、令和7年度は地元の児童はおらず、地域で取り組んでいる親子留学制度を活用して市外から一時的に児童2名を迎えて入学式を行ったというのが現実です。このような状況において、保育園、小学校、遠山中学校の児童生徒数の激減の状況は、日増しに、地域の中、保護者、学校関係者、特にまちづくり委員会等では、危機感の高まり、課題認識がされるようになってきました。両地区では、園児数、児童生徒数の減少を見据える中で、上村地区では小規模特認校制度の運用を、南信濃ではもう10年ぐらい経ちますが、やまぎと親子留学に取り組むなど、児童生徒数の確保に資する様々な取組を進めてきました。また、両地区が一緒になって、学校をテーマにした遠山郷フォーラムの開催やまちづくり委員会と連携して、南信濃では「南信濃1500委員会」を組織し、夢の1500人の人口規模にしていこうというような取組を進めてきました。やまぎと親子留学もその取組の一つであります。それから、上村ではつなぐチームという組織を組成し、子育て世代の親がこどもに上村の生活を教えるというような交流活動をして移住定住に向けた取組も行っています。

○そういった活動を根っこにしながら、令和4年度末には、保育園から中学校までの12カ年の子ども像を共有する2園3校のランドデザインを作成しました。お手元の資料 No.14をご覧くださいと思います。遠山郷学園ランドデザインは、2園3校で取りまとめたもので、裏のページを見ていただくと、タイトルは「遠山郷を愛し、誇りを持ち、未来を共に創る人づくり」をスローガンとして、保育園、小中学校、それから家庭や地域が課題共有をして取り組んでいこうと、令和4年度にみんなでまとめ上げたものです。そのように2地区が一緒に協力しながら取組をしてきた経過でございます。

○遠山郷学園の組織化のきっかけに関しましては、先ほどお話ししたような経過を辿る中で、前年度の審議会でも度々お話ししましたが、私たちの地域では、学校の再編は、待ったなしであると、まさに崖っぷちであるということ、現状認識の中で、話をしてきたつもりです。具体的なアクションとして学園会議を立ち上げ、それぞれのまちづくり委員会で諮り、遠山郷学園会議小委員会を令和6年4月に立ち上げました。構成員は、両地区のまちづくり委員会や公民館長、2園3校の保護者の代表、それからもう一つは、若年層の代表ということで未就学児童の保護者にも入っていただきました。そんなことで小委員会を立ち上げて、令和6年6月には、遠山郷学園会議全体会議として、学校の校長先生、保育園の園長先生にも加わっていただきました。構成員は全員で 22 名、令和6年6月6日には全体会議を開催しました。

○この全体会議のミッションは3つございます。一つは、遠山中学校の小規模特認校の指定。これを市教育委員会にお願いすること。それからもう一つは、令和6年度末までに、遠山三校配置・枠組みについて方針を決定すること。そして、令和7年度から遠山中学校の小規模特認校の導入をスタートさせることの3つをミッションとして会議を重ねて来ました。また、令和6年度の市長と語るまちづくり懇談会においても、学校の課題を両地区のテーマとしながら議論を進めたりする中で、小規模特認校につきましては、市教育委員会の皆さんにご努力いただき、比較的早い段階で認めていただいたという経過です。特に、遠山中学校の小規模特認校導入をお願いする根拠としては、遠山中学校が複式学級になる可能性があったということで、早急に課題として取組をしなくてはならないという考え方でした。複式が悪いというわけではないのですが、やはり希望としては、各学年1学級で教育活動を進めていきたいという保護者の皆さんの考え方もあるということです。また、将来の魅力ある学校づくりに向けまして、自分たち自身が学習する必要も感じる中で、学園会議で小中一貫校または義務教育学校において、施設一体型や施設分離型等の他地区の情報を集めたり、具体的には大町市立八坂小中学校の視察を行いました。

○このような状況の中で、遠山中学校の小規模特認校制度が令和7年度に導入することに一定の目途が立ちました。しかしながら、遠山三校の配置・枠組みに関しては、なかなか腹を割った検討を進めることができませんでした。それは両地区それぞれにとって、学校が大切な場所であって、この議論の口火を切ることすらためらいを感じていたことがありました。一方、学校のあり方審議会では、令和6年10月に第一次方針が出されたものの、具体的な配置・枠組みに関しての方針は示されませんでした。今後検討される第二次以降の方針を待って遠山郷学園の検討を進めていけば、児童生徒数の状況から考えても、もう待ったなしの状況ですから、地域側から様々な

方法で声を上げていく必要があるという意見が出されるようになり、両地区のまちづくり委員会の連名で、市長・教育長へ要望、地域協議会に意見付議等の方法も視野に入れた検討を進めてきました。

- 一番苦労したのは何を大切にするかという点です。これまでの保護者の皆さんなどの意見を踏まえて、児童生徒の教育環境や地域コミュニティといった視点で議論をしてきましたが、学校のあり方審議会の方針を抑えた中で、ハード面やソフト面の課題を出したり、児童生徒の教育環境や地域コミュニティから見た課題を整理して、2地区の役員で議論をしてきました。
- これを基に、両地区の未満児の子育て世代の保護者も含めた、それぞれの子育て世代の皆さんと意見交換を行う中で、やはり、迅速に協議を進めてほしいということが多く提案されました。特に個人的に印象に残ったのは、遠山が好きで、ご夫婦で将来もこの遠山に住み続けたいけれど、仕事がないので、遠山に居を構えて、仕事は旧市内へ通うという保護者がいて、ここで子どもを学校へ通わせたいから、学校の配置は上村でも南信濃でもどちらでもいいという意見がありました。早く配置・枠組みを決めてもらいたいという保護者の方もおられました。何か背中が押されたような気持ちになりました。
- このような状況の中で上村・南信濃地区の両まちづくり委員会は、これからの世代の意見を最大限に尊重して、迅速かつ子どもをまんやかに置いて、児童生徒にとって良い学びの環境をつくることを強く願って、2つの小学校の再編を要望することにしました。
- ここに至るまでの検討については、この審議会の議論を重ねてきた第一次方針の中でも、特に子どもをまんやかに置いて、児童生徒にとってよりよい学びの環境を作ること、そして、学校は地域コミュニティの拠点であるとともに、地域の将来の担い手や支え手となる人材を育む場であるという、この2点を大切に検討してきたところです。これも基本的には、ランドデザインに組み込まれています。
- 最終的に要望書を提出に至った理由は、現在の児童生徒数の推移の将来推計を考えると、3校それぞれが分離型で存続していくことはもう限界があるということです。令和5年度から上村保育園、和田保育園の合同保育も始まっており、合同保育を経験した園児が、小学校進学すると分かれてしまうということがないように、小学校も一つにしていくことを要望した方がいいだろうという話になったためです。
- 将来の学校のあり方が明確に示されない中で、不安を抱えながら子育てをされている保護者の皆さんが、一日でも早い方向性を見出すことが必要であるという判断で、要望書の作成に至りました。要望書の内容については、先ほど秦野教育次長から説明があったので省きます。
- その後、要望書の提出をしたことを両地区の全住民に、両地区まちづくり委員会会長からのメッセージを入れ、経過及び要望内容を周知して来ました。その周知した内容については資料 No.13にありますのでご覧いただきたいと思います。遠山郷学園だよりということで、「子供は地域の宝」というタイトルで、南信濃の遠山会長、上村の前島会長のメッセージを入れ、全戸配布し周知してきました。
- また、学校の配置・枠組みについては苦しい判断でした。地域が検討を行うということは非常に大変であり、公式の会議だけでも30回以上、それ以外も含めれば、50回はくだらないと思います。資料 No.12をご覧いただき、全ては読みませんが、遠山郷学園会議等で様々に検討してきたことを時系列で掲載してありますので、またお目通しいただければと思います。
- 今回の私からの報告では、配置・枠組みのことだけをクローズアップした話になりましたけれども、やはりこれからの学校のあり方につきましては、学校再編ありきではなく、まちづくり委員会として子どもをまんやかに、児童生徒が通いたい学校、そして遠山郷らしい魅力ある教育環境を実現できるように、学校づくりに取り組んでいかなければならないと考えています。
- 井出委員がかねてよりおっしゃっている「学校づくりは地域づくり」ということを大切に、まさに遠山郷に住む私たちが主体的に取り組んでいきたいと考えています。
- 今後、避けて通れない課題が私たちの地域には多くあります。引き続き、市教育委員会、学校関係者、保護者、それから地域の皆さんとの協議を進める中で、より良い形に向かっていければと考えています。他の学園の皆様も遠山郷とは随分状況が異なると思いますが、この議論を参考にさせていただければ幸いです。

(3) 個人ワーク

(4) グループワーク

(5) グループワークの結果を発表・共有

(Aグループ)

(後藤会長)

- 遠山郷学園の先行事例という形での学びということで、子どもをまんなかに置いてという視点と、委員それぞれの立場または地域ということも大事な柱にしながら意見交換ができました。保護者、地域の皆さんのところで言いますと、とにかく地域の人口減少、子どもの数の減少という危機意識があり、今回の要望書に、2地区のまちづくり委員会が共に同じことを書いている点が非常に重要だということを学ばせてもらい、この点にたくさんの意見が出ました。
- 具体例としましては、要望書で触れてありましたが、保育園の園児が2つの小学校に分かれていくという課題について、他の地域で実際に保育園から一緒に学んだ園児が2つの小学校へ分かれたり、2つの学園にまたがる学校もあるといった課題とも重なりました。これは、遠山郷学園から学ぶとともに、その他の地域においても課題となっているということでした。
- そして、もう一つ大きなことは、まちづくり委員会と学校運営協議会が、ひとつにまとまりながら動いている点です。それは危機意識から来ているのだろうということで、共通認識を持ったところですが、それぞれの委員の皆さんからは、ここがうまくいってないのではないかと発言が多くありました。このことは、今後考えていく上で、大事な具体的な視点だと思います。つまり、これは教育委員会の課題の方にも入っているし、うまくいっているという場合にも入っているということは、そういった理由です。
- 教育委員会の関係で言いますと、保護者に課題を明確に伝えているということ。また、逆に改善点では、保護者や地域に課題を明確に伝えることが大事だということにもなります。保護者や地域の危機意識ということも大事ですが、課題を明確に伝えることが学んだところになります。
- それからもう一点だけ触れておきます。施設分離型ということで、先ほどの小学校入学の時点で分かれていくということと同じですが、ネックになっているのが通学のことということが、話題になりました。ここは配置・枠組みのときに重要だということで、視点をみんなが共有したところでございます。いくつか他にも書かれていることはありますが、遠山郷学園から学んだこと、それから、それを基に、それぞれの地域の課題が見えたということで、話題になったところを発表させていただきました。

(Bグループ)

(三浦副会長)

- Bグループは大切にすべき点、今後の参考になる点というところから発表します。Aグループでも出ておりましたが、子どもまんなかという部分です。これに関して、子どものことを考える上で、まず保護者の意見を聞くということはとても大切なことで、遠山郷学園会議の取組では、保護者の声として「迅速に進めてほしい。」といったものに背中を押されたというお話がありました。また、保護者の意見を聞く際には、保育園をはじめとした未就学児、そして小学生、中学生等、子育て中の保護者の方の意見を聞いて、子どもまんなかというものを考えていく、これが大切ではないかという意見が出されております。
- 市教育委員会や市の関わり方に関しましては、市教育委員会も一緒に議論してくれたというお話がありまして、学校再編の取組を進めて考えていく上で、とても大切なことであろうという意見が出されております。
- 続いて、取組の障害となる点、気になる点について、まず、地域や保護者の取組では、先ほどは子どもまんなかでしたけれども、ここでは地域コミュニティを真ん中にといた視点がなくなってしまうということは、地域にとって本当に問題であるという点に関して意見が出されました。私たちのグループには玉置さんもいらっしやいまして、もっと詳しいお話をお聞きしましたが、大変なご苦労されているというお話も聞いております。一つ一つのことを言いにくい、責任は誰が取るのか等という話になってきます。学校がなくなってしまうという地域の思いや考え方は一つの障害といったものになり得ます。
- もう一つは、将来が見えてこない、どういった時に危機感を持たなければいけないのかという将来が見えないという意見も出されました。遠山郷学園では、危機感があってというお話でしたが、他の地域にしますと、いつ危機感を持てばいいのかわからないということがあります。そうなりますと、市教育委員会の考え、取組の支援などというところでは、あるべき姿の方針を示していくと言った、市の姿勢も大切で、学校の運営コストであるとか、将来の財政の見通し等、市民

の方が知る由もない視点から、地域の危機意識を認識してもらい、議論を始めるタイミングを各地域で計っていくということが大切なのではないかという意見が出ております。以上です。

(C グループ)

(山浦委員)

- 私たちのグループは5名いますので、さまざまな視点から濃密な議論ができたと思いますが、全てを取り上げるわけにはいきませんので、概要をお話します。まず大事にすべき点、今後の参考になる点の部分ですけれども、遠山郷学園の取組について説明していただいたわけですが、その説明から重要な点をキーワード的に申し上げますと、地域の主体性、分析的思考とその解決に向けた様々な実践、学校と地域でつくる学びの未来を考えていること、飯田学園構想に関係した情報収集力やスピード感、対話と合意形成を大事にしている点など、学ぶべき点がとても多かったです。しかし、地域の中に入ってみると、住民の温度差があったり、問題意識の違いがあったりということで、キャッチフレーズは「こどもまんなか」には言っているけれども、やはり自分中心になっている部分がありませんかというようなご意見もありました。そういう中で、やはり市教育委員会では、常に課題とミッションを共有しながら、その地域の伴走に徹してくれているという点で、寄り添う姿勢というのはありがたいなということを感じています。
- 取組の障害の部分についてですけれども、遠山郷学園のように児童生徒数の減少という緊急的な課題がありすぐにやらなければいけないというところはあるのですが、地域によってはまだまだ大丈夫だというようなことから、学園構想や学校のあり方についての問題意識の低さがあるという意見もありました。また、既存の組織である学校運営協議会やコミュニティスクール、それから学園地域コーディネーターの配置ということで、それぞれの機関の役割や仕組み、どのようなシステムで動いていけばいいのかということ、今後整理が必要だという意見がありました。更に、学園内で組織を立ち上げていく時の委員の選出は最も大事なポイントになってくるという意見もありました。
- 最後に、このあり方審議会でこれから議論していかなければいけない点については、これから各学園の優先順位をどうすればいいのか、緊急性や重要性が高い学園地域は早くやるとか、あるいは地域が主体的に動いているところを早くやるということではなくて、やはりどのような順位性を持ちながらやっていくのかという点の一つ。それからもう一つは、今までの学校のあり方審議会の議論で、目的と目的地と道のりは明確になっているので、これからは、例えば施設分離型や施設一体型等のどういう乗り物に乗っていくのかということ、これをこれから選択をしていかなければいけないと思います。遠山郷学園は、1小学校1中学校で、施設分離型という乗り物に乗っていきまますという選択をしたわけですが、これから他の学園も、どういう乗り物にするかということは議論していかなくてはならないので、そういった乗り物の見通しは、この学校のあり方審議会で提案をしていくことが大事になってくるのではないかという話になりました。以上です。

(6) 坂野委員及び井出委員からコメント

(坂野委員)

- まず一点目ですけれども、こどもをまんなかに置いてということについては、ほとんどのグループで共有されていたかと思います。問題となるのは、ここにいる審議会委員の方々は共有できていますが、他の方々がどれくらいその意識があるかということは考えておく必要があると思います。
- 二点目として、市のサポートのことですが、今の市のサポートは良いのではないかということが、グループの発表から読み取れました。つまり、対話型で共にやっていくという姿勢が、関係者の中では共有されている。ただし、これまで議論に加わっていない方々に対して、市教育委員会の姿勢や立ち位置をどのように伝えていくかが課題になってくるかと思えます。
- 三点目になりますが、今後に向けて改善した方が良い点ですが、遠山郷学園会議の取組から、多少延びたが、先にいつまでに決めるかという期限を定めていたことが重要で、学校のあり方の方向性について誰が決めるかということが問題になるところであります。先に市教育委員会が示してしまうと、出口が決められていて地域としてやりたくないという思いが出てしまうが、地域の方々の中で、期限を定めたということがまさに良いプロセスなのだと思います。
- 四点目についてですが、遠山郷学園会議の取組のお話にもありましたが、会議の回数が非常に多くなったということで、参加している委員の方々の負担が生じてしまっています。その負担感をどのように捉えていくかが大切で、相互理解を深めるための手続きであるというような捉え方を共有できると良いかと思いました。以上です。よろしくお祈いします。

(井出委員)

- それぞれのグループ発表の中でほとんど大事な部分に触れていますので、それを踏まえていくつかお話をします。
- 一つは、遠山郷学園をサンプルに色々と話し合いをしましたけれども、これが例えば、緑ヶ丘学園や旭ヶ丘学園といった地域の問題を考える時には、全く違った問題が出てくるだろうということです。つまり、非常に良い進め方をしているけれども、これは遠山郷の児童生徒数の急激な減少という、非常にわかりやすい問題があって、それをみんなで考えていこうと当事者意識を持って話し合っていたという、良い組み合わせが良い関係ができていたから進んでいったところがあります。逆に、大きい規模の学園は、児童生徒数は減っていないし、地域はますます広がっているというところで、同じモデルとして考えることはできません。このところは先ほど最後のグループの乗り物議論をどうしていくかというところに繋がっていくと思います。
- 二つ目は、これからどういう乗り物に乗っていくのか考える時に、重要な視点は自治体が今後その個々の地域をどのように発展させていこうとしているのかということです。つまり、住民福祉をどのような形で充実させていこうとしているのかという視点。その中で大きな役割は教育があるわけですが、学校再編という形で矮小化しないように、あくまで飯田市全体の地域の活性化、行政サービスの充実といった視点から捉えていくことが必要だと思います。なので、ぜひ、教育委員会と地域の人たちだけで話をまとめさせられないように、広く、市としてはどういう方向性を持っているのかということ、常に市長部局とタイアップして考えていく必要があろうかと思えます。今後、特に本日指摘された今後どういう乗り物に乗っていこうとしているのかという視点は、学校教育だけの問題ではないので、ぜひ、そういった議論も進めていくようにしてください。以上です。

(7) 個人ワーク

6 連絡事項

事務局から会議録及び次回日程に関して事務連絡

7 閉会挨拶

(三浦副会長)

- 委員の皆様お疲れ様でした。グループワークを通して、私自身も本当に自分事として深く、これからの学校のあり方に関する話題を考えることができたと思います。こうあるべきではなく、どうあるべきなのかということ議論していくということの大切さを改めて感じました。そして、坂野先生からは、議論に加わっていない市民の方々がたくさんいるという認識を持った上で対話していくことが大切であるといった視点をいただきました。また、井出先生からは、遠山郷学園はわかりやすい共通課題があり、そういった特殊な事例からもたらされる、学校のあり方を考えていく視点というものをしっかり持っていなければいけないといったところをご助言いただいたかと思えます。
- また、どのような乗り物に乗るかという C グループからの発表にもあったかと思いますが、井出先生からも触れていただいております。市教育委員会や飯田市、行政の方からも飯田市がこれからどのような方向に向かっていくのかということを示していただいて、地域の住民と寄り添っていただきながら、同じ土俵に立って議論していただきたいと、このワークの中で感じたところです。
- 委員の皆様はどのような感想を持たれましたでしょうか。感想になってしまいましたけれども、私からは以上になります。本日はありがとうございました。